(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2007-124017
(P2007-124017A)
(43)公開日　平成19年5月17日(2007.5.17)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
H04N 5/93	(2006.01)	H04N	5/93	E	5C052
H04N 5/76	(2006.01)	H04N	5/76	Z	5C053
H04N 7/173	(2006.01)	H04N	7/173	630	5C164
G11B 20/10	(2006.01)	G11B	20/10	D	5D044
		G11B	20/10	311	

審査請求 未請求　請求項の数 9　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　特願2005-309922 (P2005-309922)
(22)出願日　平成17年10月25日 (2005.10.25)

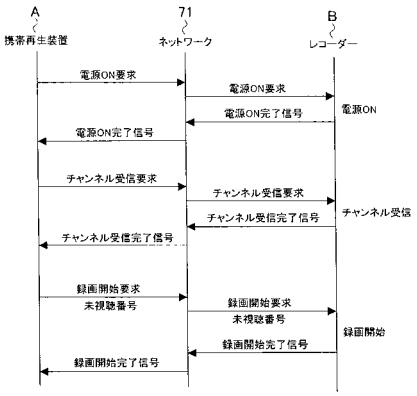
(71)出願人　000005049
シャープ株式会社
大阪府大阪市阿倍野区長池町２２番２２号
(74)代理人　100091096
弁理士　平木　祐輔
(72)発明者　西岡　良典
大阪府大阪市阿倍野区長池町２２番２２号
シャープ株式会社内
(72)発明者　岩見　洋平
大阪府大阪市阿倍野区長池町２２番２２号
シャープ株式会社内

Ｆターム(参考)　5C052 AA01 AA17 AB03 AB04 DD04
5C053 FA23 FA27 GB06 JA21 KA04
KA05 KA24 LA06 LA07 LA14

最終頁に続く

(54)【発明の名称】電子機器、携帯テレビ装置、データ転送方法

(57)【要約】　（修正有）
【課題】携帯型装置でコンテンツを視聴中に中断した場合に、継続してそのコンテンツの続きを視聴することができるようにする。
【解決手段】携帯再生装置Ａはネットワーク７１を介してレコーダーＢに電源ＯＮの要求を行う。レコーダーＢは電源をＯＮし、ネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに電源ＯＮ完了信号を送る。携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに現在視聴中の番組に関するチャネル受信要求を行う。レコーダーＢは指定されたチャネルの番組を受信し、ネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａにチャネル受信完了信号を送る。携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに未視聴番号を付して録画開始要求を行う。レコーダーＢは指定された番組の録画を開始し、ネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに録画開始完了信号を送る。これによりレコーダーＢにおいてリモート録画が開始される。
【選択図】図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
通信機能を備えコンテンツを視聴可能な第１の機器と、通信機能を備え、コンテンツを記録可能な第２の機器との間におけるデータ転送方法であって、
前記第１の機器から前記第２の機器に記録要求を行うステップと、
前記記録要求に応じて前記第２の機器に記録されたコンテンツを、該コンテンツに付され前記第１の機器において視聴されたコンテンツの続きであることを特定する識別子に基づいて検索し前記第１の機器へ転送するステップと
を有することを特徴とするデータ転送方法。
【請求項２】
前記第２の機器に記録されたコンテンツの形式が前記第１の機器において視聴可能な形式であるか否かを判断し、視聴できない形式である場合に視聴できる形式に変換するステップを有することを特徴とする請求項１に記載のデータ転送方法。
【請求項３】
前記第１の機器から前記第２の機器に記録要求を行うステップにおいて、前記第２の機器が録画できない状態であった場合に、その旨を知らされた前記第１の機器が、自己の記憶部に前記第２の機器が録画可能になるまでの間のコンテンツを記録するステップを有し、
前記第１の機器へ転送するステップは、前記自己の記憶部に記憶されたコンテンツに続いて前記転送されたコンテンツを前記記憶部に記憶するステップを含むことを特徴とする請求項１又は２に記載のデータ転送方法。
【請求項４】
請求項１から３までのいずれか１項に記載のステップをコンピュータに実行させるためのプログラム。
【請求項５】
請求項４に記載のプログラムを記録したコンピュータ読取り可能な記憶媒体。
【請求項６】
通信機能を備えコンテンツを視聴可能な第１の機器と、通信機能を備え、コンテンツを記録可能な第２の機器と、を有するシステムであって、
前記第１の機器から前記第２の機器への録画要求に応じて前記第２の機器に記録されたコンテンツを、該コンテンツに付され前記第１の機器において視聴されたコンテンツの続きであることを特定する識別子に基づいて検索し前記第１の機器へ転送するステップ制御を行うことを特徴とするシステム。
【請求項７】
通信部と、
コンテンツを視聴するコンテンツ視聴部と、
視聴中断したコンテンツＩＤを記憶する記憶部と、を有し、
視聴中断したコンテンツを相手方に特定できるようにして記録命令を前記通信部から送ることを特徴とする携帯型コンテンツ視聴装置。
【請求項８】
通信部と、
相手方から知らされたコンテンツＩＤにより特定されるコンテンツを知らされてから記録するコンテンツを記憶するコンテンツ記憶部と、を有し、
相手方と接続された際に、前記コンテンツ記憶部に記憶されたコンテンツを相手方に転送することを特徴とするコンテンツ記録装置。
【請求項９】
携帯テレビ装置であることを特徴とする請求項７に記載の携帯型コンテンツ視聴装置。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】

本発明は、データ転送技術に関し、より詳細には、携帯テレビ装置において、煩雑な操作なしに所定の選択操作だけで携帯テレビ装置で視聴途中だったコンテンツを据置き録画再生装置で視聴継続できるようにする技術に関する。

【背景技術】

【０００２】

記録再生装置と携帯型再生装置とで、コンテンツの視聴に関する連携をとることができるシステムとして、例えば、録再装置と携帯再生装置とを備えており、携帯再生装置が据置き録再装置に接続された状態で、携帯再生装置であるコンテンツが視聴途中だった場合には、据置き録再装置においてそのコンテンツと同じコンテンツを選択し、視聴途中のフレーム位置までシークした状態としたのち、そのコンテンツを示す情報を表示してユーザに視聴を継続するかどうかの選択を促し、継続する選択がなされた場合には視聴途中の位置から再生を再開する技術が開示されている（特許文献１参照）。

【０００３】

これにより、煩雑な操作なしに所定の選択操作だけで携帯再生装置で視聴途中だったコンテンツを据置き録再装置で視聴継続できる。

【０００４】

【特許文献１】特開2005-159439号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、上記技術を用いても、例えば、外出先でＴＶ番組をライブ視聴中に、やもえず視聴を中断する場合（電波状況など）の処理については対応できない。

【０００６】

本発明は、携帯型装置でコンテンツを視聴中に中断した場合において、継続してそのコンテンツの続きを視聴することができるようにすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

モバイルＴＶにおいて、外出先で何らかの理由で視聴を断念する際、ネットワーク経由で自宅レコーダーに録画を設定し、それと同時に未視聴番組のリストをモバイルＴＶのメモリに作成する。帰宅後、レコーダーにメモリを接続すると自動的に未視聴番組をモバイルＴＶに転送する。

【０００８】

外出先で視聴を断念した番組の情報をモバイルＴＶ本体、もしくは、メモリカードなどにリストとして保存し、帰宅後、レコーダーに本体を接続、もしくはメモリカードを挿入した際、自動的に視聴を断念した番組をレコーダーから転送する。

【発明の効果】

【０００９】

本発明によれば、自宅帰宅後、外出先で視聴を断念した番組を録画番組の中から検索し指定することなく自動的にモバイルＴＶに転送するため、処理の煩わしさが軽減される。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下、本発明の一実施の形態による携帯テレビ装置（以下、モバイルＡＶと称する。）を含むシステムについて図面を参照しながら説明を行う。図１は、本実施の形態による携帯テレビ装置（モバイルＡＶ装置）の一構成例を示す機能ブロック図である。図１に示すように、本実施の形態による携帯テレビ装置Ａは、アンテナ１と、チューナー３と、ＣＰＵ５と、ＲＯＭ７と、ＲＡＭ１１と、ストレージデバイス１５と、通信装置１７と、サウンドコントローラ２１と、ビデオコントローラ２５と、入力デバイス３１と、を有している。ＣＰＵ（制御装置）５は、バスラインＢＬ１を介して各機能ブロックを制御する。また、サウンドコントローラ２１には例えばヘッドフォン２３が、ビデオコントローラ２５には例えば小型のディスプレイ２７が接続されている。さらに、ＲＯＭ７には、ＣＰＵ５

に各種の制御を実行させるためのプログラム７ａと、機器をユニークに識別する機器ＩＤと、が格納されており、ＲＡＭ又はＲＯＭには各種の管理テーブルが格納されている。

【００１１】

図２は、本実施の形態によるレコーダー装置（録再装置）の一構成例を示す機能ブロック図である。図２に示すように、本実施の形態によるレコーダー装置Ｂは、アンテナ４１と、チューナー４３と、ＣＰＵ４５と、ＲＯＭ４７と、ＲＡＭ５１と、ストレージデバイス（ＨＤ）５３と、通信装置５５と、サウンドコントローラ５７と、ビデオコントローラ６３と、入力デバイス６７と、を有している。ＣＰＵ（制御装置）４５は、バスラインＢＬ２を介して各機能ブロックを制御する。また、サウンドコントローラ５７には例えばスピーカ６１が、ビデオコントローラ６３には例えばディスプレイ６５が接続されている。さらに、ＲＯＭ４７には、ＣＰＵ４５に各種の制御を実行させるためのプログラム４７ａと、機器をユニークに識別する機器ＩＤと、が格納されており、ＲＡＭ又はＲＯＭには各種の管理テーブルが格納されている。

【００１２】

図３は、本実施の形態によるシステムのリモート録画開始の際のシーケンス図であり、携帯再生装置Ａと、レコーダーＢと、ネットワーク７１と、の間の制御信号のやり取りを示す図である。まず、携帯再生装置Ａはネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して電源ＯＮの要求を行う。これに応じて、レコーダーＢの電源がＯＮされる。レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対して電源ＯＮ完了信号を送る。

【００１３】

電源ＯＮ完了信号を受け取った携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して現在視聴中の番組に関するチャネル受信要求を行う。これに応じて、レコーダーＢにおいて指定されたチャネルの番組を受信する。レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対してチャネル受信完了信号を送る。

【００１４】

チャネル受信完了信号受け取った携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して、未視聴番号を付して録画開始要求を行う。これに応じて、レコーダーＢにおいて指定された番組の録画を開始する。レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対して録画開始完了信号を送る。これにより、レコーダーＢにおいてリモート録画が開始される。

【００１５】

図４は、本実施の形態によるモバイルＡＶの録画完了表（未視聴リスト）の一例を示す図である。図５は、レコーダー側録画コンテンツ管理テーブルの一例を示す図である。図４に示すように、未視聴リストは、機器ＩＤを含む未視聴番号と、これに対応するチャネル番号と、優先順位と、レコーダーからモバイルＡＶへの転送が完了しているか否かを示す転送フラグと、を有している。図５に示すように、レコーダー側録画コンテンツ管理テーブルは、図４に対応する未視聴番号及びチャネル（ＣＨ）番号を有している。

【００１６】

図３に示すシーケンスにより自宅のレコーダーに録画を設定し、モバイルＡＶには図４に示す未視聴リストを作成し、自宅に帰宅後、モバイルＡＶをレコーダーに接続すると、図４に示すリストと図５に示すテーブルにより、自動的に未視聴リストにある番組を優先順位に従ってレコーダーからモバイルＡＶに転送する。尚、未視聴リストはモバイルＡＶ本体において編集ができる。

【００１７】

図６は、上記システムにおける帰宅後のコンテンツ自動転送処理の流れを示すフローチャート図である。図６に示すように、ステップＳ１において処理を開始すると（開始）、ステップＳ２において、モバイルＡＶにレコーダーから残りのコンテンツを転送した場合にこれを収容するだけのメモリ容量が残っているか否かを判定する。モバイルＡＶにメモリ容量が残っていない場合には、ステップＳ１０に進み、コンテンツをモバイルＡＶへ転送せずに処理を終了する。メモリ容量がある場合には（ＹＥＳ）ステップＳ３に進み、未

視聴番号が付与されたコンテンツが未視聴リストに存在するか否かを判定する。未視聴番号が付与されたコンテンツがない場合には（ＮＯ）ステップＳ１０に進み処理を終了する。未視聴番号が付与されたコンテンツがある場合には（ＹＥＳ）、ステップＳ５に進み、レコーダー側に問い合わせを行う。この問い合わせの結果、未視聴リストと録画コンテンツテーブルにおいて一致するコンテンツであって、優先順位の高いコンテンツから転送の準備を行う。次いで、ステップＳ６において、転送準備を行っているコンテンツのレコーダー側における記録フォーマットがモバイルＡＶ側において視聴可能な形式であるか否かを判定する。視聴可能な形式でない場合には（ＮＯ）ステップＳ７に進み視聴可能な形式に変更するための処理を行う。視聴可能な形式である場合には（ＹＥＳ）又は変更が行われた場合には、ステップＳ８に進み、未視聴番号が一致するコンテンツをレコーダー側からモバイルＡＶ側へ転送する。次いで、ステップＳ９において、転送済フラグを済みにして、ステップＳ２に戻り、次の処理を行う。

【００１８】

以上に説明したように、本実施の形態によれば、外出先でモバイルＡＶによる視聴を中断した番組について自宅のレコーダーに録画指示を行い、自宅帰宅後、録画番組の中から検索し指定する作業を行わなくても、自動的にモバイルＴＶに転送することができる。従って、処理の煩わしさが軽減されるという効果がある。

【００１９】

次に、本発明の第２の実施の形態による携帯テレビ装置（モバイルＡＶ）を含むシステムについて図面を参照しながら説明を行う。図７は、本実施の形態によるシステムにおけるリモート録画開始のシーケンス図である。図８は、モバイルＡＶの録画完了表（未視聴リスト）の例を示す図である。図９は、帰宅後の自動転送処理の流れを示すフローチャート図である。本実施の形態においては、外付けの記録媒体によるレコーダー連携が可能な点を特徴とする。

【００２０】

図７は、本実施の形態によるシステムのリモート録画開始の際のシーケンス図であり、携帯再生装置Ａと、レコーダーＢと、ネットワーク７１と、の間の制御信号のやり取りを示す図である。まず、携帯再生装置Ａはネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して電源ＯＮの要求を行う。これに応じて、レコーダーＢの電源がＯＮされており、かつ、現在、録画中である場合に、レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対して（現在録画中であることを伝える）録画中信号を送る。録画中信号を受け取った携帯再生装置Ａは、レコーダーＢでは録画ができないことを知ったため、自己のメモリ（例えばメモリカード）にメモリ録画を行う。レコーダーＢの録画処理が終了すると、レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対して録画終了信号を送る。

【００２１】

録画終了信号を受け取った携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して現在視聴中の番組に関するチャネル受信要求を行う。これに応じて、レコーダーＢにおいて指定されたチャネルの番組を受信する。レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対してチャネル受信完了信号を送る。

【００２２】

チャネル受信完了信号受け取った携帯再生装置Ａは、ネットワーク７１を介してレコーダーＢに対して、未視聴番号を付して録画開始要求を行う。これに応じて、レコーダーＢにおいて指定された番組の録画を開始する。レコーダーＢはネットワーク７１を介して携帯再生装置Ａに対して録画開始完了信号を送る。これにより、レコーダーＢにおいてリモート録画が開始され、一方、携帯再生装置Ａでのメモリ録画を終了する。

【００２３】

図８は、本実施の形態によるモバイルＡＶの録画完了表（未視聴リスト）の一例を示す図である。図８に示すように、未視聴リストは、機器ＩＤを含む未視聴番号と、これに対応するチャネル番号と、優先順位と、レコーダーからモバイルＡＶへの転送が完了しているか否かを示す転送フラグと、レコーダー連携の有無と、を有している。レコーダー連携

有りのコンテンツに関しては、コンテンツファイルとして、メモリカードに記録していたコンテンツと、レコーダーに録画していたコンテンツとの両方を、携帯再生装置の内部メモリ等に転送して、１つのコンテンツを再生成することになる。

【００２４】

図９は、上記システムにおける帰宅後のコンテンツ自動転送処理の流れを示すフローチャート図である。図９に示すように、ステップＳ１１において処理を開始すると（開始）、ステップＳ１２において、モバイルＡＶにレコーダーから残りのコンテンツを転送した場合にこれを収容するだけのメモリ容量が残っているか否かを判定する。モバイルＡＶにメモリ容量が残っていない場合には、ステップＳ２１に進み、コンテンツをモバイルＡＶへ転送せずに処理を終了する。メモリ容量がある場合には（ＹＥＳ）、ステップＳ１３に進み、未視聴番号が付与されたコンテンツが未視聴リストに存在するか否かを判定する。未視聴番号が付与されたコンテンツがない場合には（ＮＯ）、ステップＳ２１に進み処理を終了する。未視聴番号が付与されたコンテンツがある場合には（ＹＥＳ）、ステップＳ１４に進み優先順位の高いコンテンツを選択し、このコンテンツに関してステップＳ１５においてレコーダーに問い合わせる。

【００２５】

次いで、ステップＳ１６において、モバイルＡＶで視聴可能な形式であるか判定する。視聴可能な形式でない場合にはステップＳ１７に進み形式変換を行った後にステップＳ１８に進み、ステップＳ１８において、未視聴番号が一致するコンテンツを転送する。ステップＳ１９において、レコーダー連携があるかどうかを判断し、レコーダー連携が無い場合には（ＮＯ）、ステップＳ２１に進み、そのままコンテンツを保存し、レコーダー連携がある場合には（ＹＥＳ）、ステップＳ２０に進み、未視聴番号が同じコンテンツをメモリからモバイルＡＶに転送してリンクして保存する。いずれの場合も、ステップＳ２２において転送済みフラグを転送済みにチェックしてステップＳ１２の処理に戻る。

【００２６】

以上に説明したように、本実施の形態によれば、レコーダーが使用中だった場合に一旦別のメモリに保存し、レコーダーの使用が可能になった後にレコーダーに録画し、自宅帰宅後、外出先でモバイルＡＶによる視聴を中断した番組について自宅のレコーダーに転送指示を行うとともにメモリからも転送し、録画番組の中から検索し指定する作業を行わなくても、自動的にモバイルＡＶに転送することができる。従って、処理の煩わしさが軽減されるという効果がある。

【００２７】

尚、本発明は、電子機器、携帯テレビ装置、データ転送方法として適用可能であり、例えばテレビ機能付きの携帯電話機にも利用可能である。

【産業上の利用可能性】

【００２８】

本発明は、携帯型のコンテンツ視聴機器に利用可能である。

【図面の簡単な説明】

【００２９】

【図１】本発明の第１の実施の形態による携帯テレビ装置（モバイルＡＶ装置）の一構成例を示す機能ブロック図である。

【図２】本実施の形態によるレコーダー装置（録再装置）の一構成例を示す機能ブロック図である。

【図３】本実施の形態によるシステムにおけるリモート録画開始の処理に示すシーケンス図である。

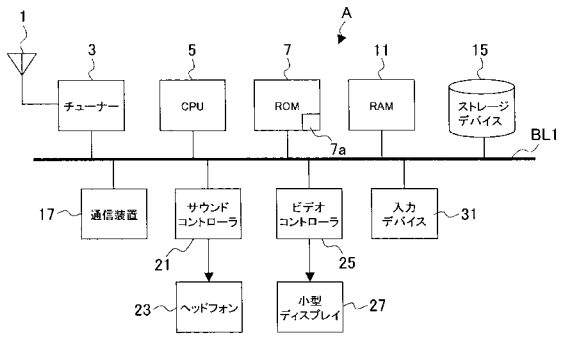
【図４】本実施の形態によるモバイルＡＶの録画完了表（未視聴リスト）の一例を示す図である。

【図５】レコーダー側録画コンテンツ管理テーブルの一例を示す図である。

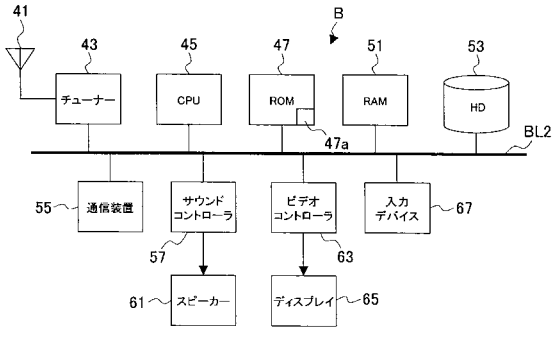
【図６】上記システムにおける帰宅後のコンテンツ自動転送処理の流れを示すフローチャート図である。

【図７】本発明の第２の実施の形態によるシステムにおけるリモート録画開始のシーケンス図である。
【図８】モバイルＡＶの録画完了表（未視聴リスト）の例を示す図である。
【図９】帰宅後の自動転送処理の流れを示すフローチャート図である。
【符号の説明】
【００３０】
Ａ…携帯テレビ装置、１…アンテナ、３…チューナー、５…ＣＰＵ、７…ＲＯＭ、７ａ…プログラム、１１…ＲＡＭ、１５…ストレージデバイス、１７…通信装置、２１…サウンドコントローラ、２５…ビデオコントローラ、３１…入力デバイス、ＢＬ１、２…バスライン、２３…ヘッドフォン、２５…ビデオコントローラ。

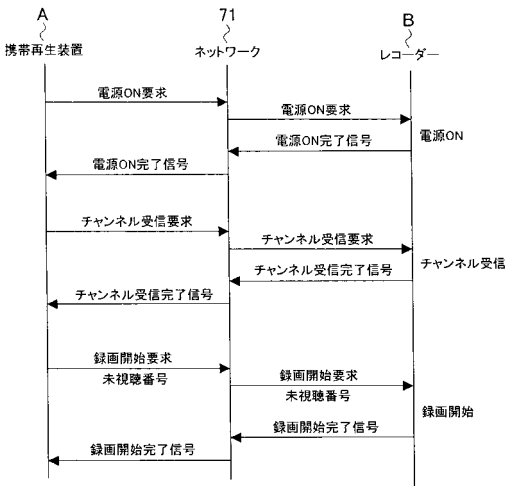
【図１】



【図２】



【図３】



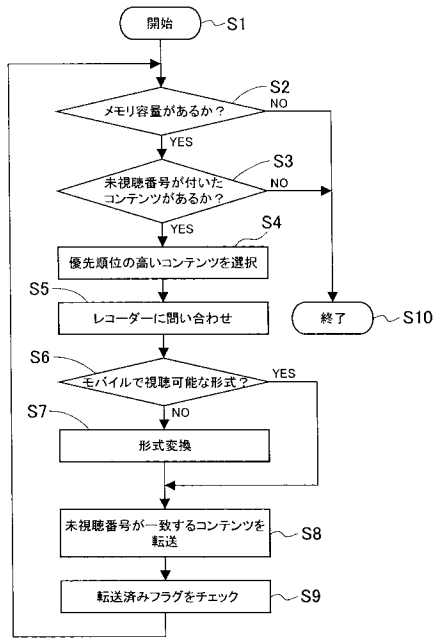
【図４】

未視聴番号	CH番号	優先順位	転送	コンテンツファイル
200509112000	121	1	済	
200509101700	135	2	未	
200509121800	175	3	未	

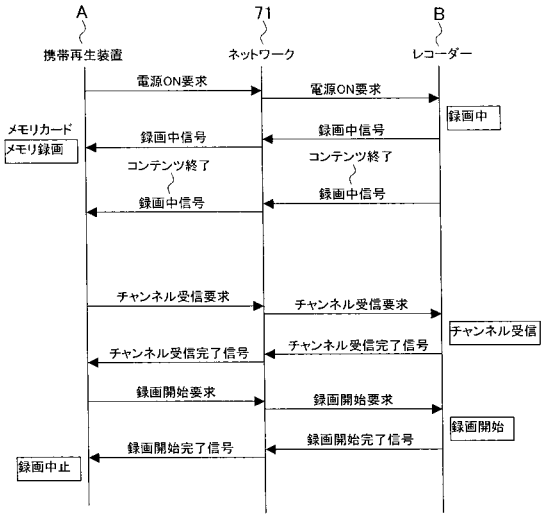
【図５】

未視聴番号	CH番号	コンテンツファイル
200509112000	121	
200509101700	135	
200509121800	175	

【図６】



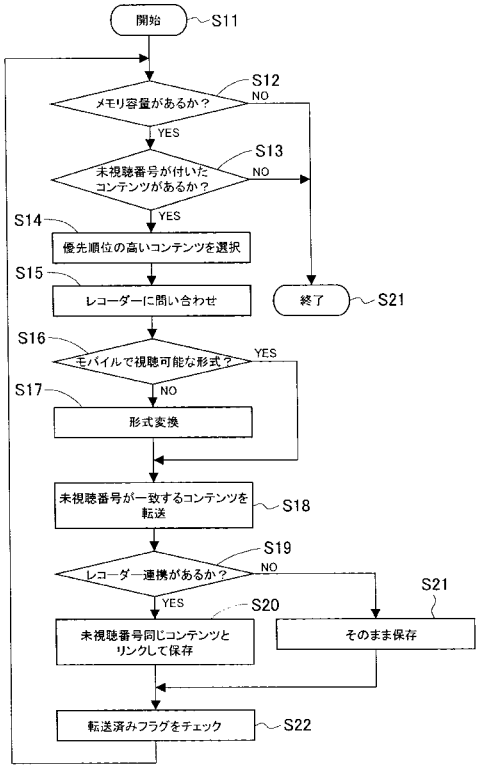
【図７】



【図８】

未視聴番号	CH番号	優先順位	転送	レコーダ連携	コンテンツファイル
200509112000	121	1	未	あり	
200509101700	135	2	未	なし	
200509121800	175	3	済	なし	

【図９】



フロントページの続き

Ｆターム(参考) 5C164 UA03S UA04S UA22S UA44P UB02S UB31S UB37P UB72S
5D044 AB05 AB07 BC08 CC09 DE01 DE17 DE45 DE49 HL11